

登校時、保護者の車 乗り入れに自粛要請を

答 学校側から保護者に生徒の徒歩登校を促す



大城 勝 議員

問 翔南小学校裏門からの道路は、道幅が狭いところに車の乗り入れも多い。交通安全面でのどのような対応策を講じることができるか。

教育部長 この道路は、学校給食車が学校への乗り入れ時に利用しており、安全運転指導を行っている。

学校教育課長 校長から、出勤職員には時速20キロ以下の運転指示が出ている。

問 当該道路は歩行者の安全確保を目的とした歩道の整備が必要と考えるがどうか。

教育部長 道路の幅員が狭隘（きょうあい）で歩道整備は難しいため、交通安全指導や徒歩登校を推進して対応する。

問 学校へ車を乗り入れる保護者への自粛要請も必要であり、児童への交通安全指導の徹底を図ることも大切である。学校やPTA、行政が一体となった話し合いを持つべきと考えるがどうか。

学校教育課長 まずは学校側から保護者に徒歩登校を促すような文書を配るなど、できることから取り組んでいく。

問 照屋内の中道りに架かる老朽化した橋の整備に関するどのような対処策を考えているか。

副町長 修繕に向けて取り組んで行く。



▲看板での突起注意を図っている。

問 地域住民は早急の対処工事を望むが着工時期はいつごろの予定か。

まちづくり振興課長 地域住民としては、平成31年からは事業がとれるのか。財政とも、県とも調整していきたい。

特定健診の受診率向上を

問 本町の特定健診受診率はいくらか。

副町長 平成26年度46・9％、平成27年度48％、平成28年度43・9％である。

問 目標とする受診率はいくらか。目標値の達成に向けてどんな策がとれるか。

副町長 町の目標は60％である。達成に向け嘱託員による電話や訪問による受診勧奨を行っている。また特定健診受診者へのインセンティブ付与事業の推進や医療機関に対して受診勧奨依頼に